NEWS plus α

文豪に憧れる子猫 マダニャイ

地域発 岩手県から

月・火・水曜 地域発　木曜 朝デジから ｜ 金曜 世論調査

友達のはりねずみ ナール

「大槌弁」LINEスタンプに

学生が制作「祖父母の方言残したい」

岩手大4年の中村史佳さん(21)が、生まれ育った岩手県大槌町周辺の方言をイラストにしたLINEのスタンプを作り、静かな人気を呼んでいる。「祖父母が使っていた方言を残し、伝えたい」と話す。

スタンプは2セット計80種類。「がっつぁ」（とても）のように大槌でしか聞いたことがないという言葉や「だっからさー」（同意する相づち）のように、標準語の「だから」とは違う使い方をする言葉などが並んでいる。

きっかけは、他の人が作った岩手弁のスタンプを見て、「驚いた時は『じゃじゃじゃ』でなく『さっこ』だな」と違和感を感じたこと。大槌では言わない方言があったり、よく使う方言がなかったりした。それなら「大槌弁」で作ってみようと思った。

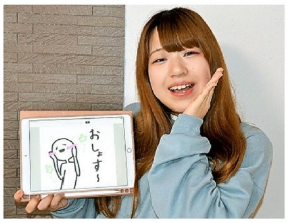
LINEで使いそうな方言を40種類選び、1時間ほどでイラストを描き上げた。あえて性別や年齢が不明な線画で人を描き、幅広い年齢層に使ってもらえるようにした。

昨年5月、「ウミウサギ」のペンネームで、「岩手沿岸の人」と名付けたスタンプセット第1弾を発売。各地にいる大槌町出身者や町の中高年を中心に「この言葉も入れて」とリクエストが続々とあり、年末に第2弾を発表。合計250セットが売れた。

「よく使う大槌弁はマイナスの感情を表すことが多いなあ」と中村さん。今度は「『あんべいい』（心地いい）のような、プラスの意味の言葉を探したい」。

（東野真和）

＝3月23日掲載



自作の方言スタンプ「おしょす～」（恥ずかしいという意味）と同じポーズをする中村史佳さん＝岩手県大槌町

取材考記

文化くらし報道部　吉田　美智子

聖火リレー中止検討など奮闘する知事たち

命を守るリーダーか　目をこらそう

東京五輪の聖火リレーは中止を。そんな議論の口火を切ったのは、島根県の丸山達也知事だった。今年2月、上京した丸山知事の記者会見をユーチューブで見た。時に涙を浮かべ「（コロナで東京では）医療にかかることなく亡くなった方がいる」「検証をして、対応能力を上げていることを示す必要がある」などと訴えたが、その真意はどれだけの人に伝わっただろうか。

昨秋、土曜別刷り「be」の記事「知事のリーダーシップとは　感染拡大、それぞれの決断」で、改革派で知られた元鳥取県知事の片山善博・早稲田大学院教授が評価する5人の知事を取材した。うち1人が丸山知事だった。

昨年、首相が全国一斉休校を発表した際、丸山知事は強制ではない判断と授業継続を決めた。私の取材では、濃厚接触者をたどる感染源を突き止める「積極的疫学調査」の大切さを熱く語る口ぶりが印象的だった。丸山知事はその後も、無症状者への積極検査と早期隔離で感染を封じ込める一方、経済の立て直しのために歓送迎会を推奨する。島根は4日現在、唯一の「コロナ死ゼロ県」だ。「まじめでパフォーマンス嫌い」（県政担当記者）という丸山知事。今回の聖火リレー問題で、首都圏の感染再拡大が地方にも影響を及ぼすとの危機感から、やむをえず勝負に出たのだろう。

私が取材したある知事は、庁舎建て替えの基金を取り崩して、春まで病床や宿泊施設を借り上げ、地域の医師や看護師の輪番制を整える、と話した。

「第1波」から県の他部署の職員を動員して、保健所の積極的疫学調査や相談業務の応援態勢を組んだ別の知事は「大都市は予算も人員も圧倒的に多い。できることはもっとあるはずだ」と主張した。無論、自治体ごとに人口や規模が違い単純比較はできないが、こうした地方の知事らの姿を見ると、リーダーが頭を使い汗をかくことで、都市部でも救えた命がもっとあったかもしれないと思えてくる。

この間、あなたが住む自治体のリーダーや議員が、住民の命と生活を守るために何をしたのか、目をこらして見ておこう。そして、それを次の一票にいかすことが大切だと思う。

現場へ！

夜の教室は「心の居場所」

「外国ルーツ」の子を支える 1

火曜の夜、私は大阪ミナミの繁華街の外れに出かけていく。そこには、外国にルーツをもつ子どもたちの勉強をみる「Ｍｉｎａｍｉこども教室」がある。

教室が活動する大阪市中央区の島之内地区は、住民6千人の33％が外国籍。ミナミの飲食店で働く人々が多い。その子どもたち、小学生から高校生まで40人ほどが教室に集まる。区の子育て施設で、私も住民や大学生に交じり、学校の宿題や日本語を教えている。

学生時代、アジアや中東を旅して「国籍や民族的ルーツの違う人々が共に暮らす場所」に心ひかれた。30歳だった7年前、まさしくそんな「現場」だと思える、この子ども教室の存在を知った。取材を兼ね、ボランティアとして参加したいと申し出た。

高3の3学期、「Ｍｉｎａｍｉこども教室」でボランティア側に末っ子のメグ（中央）。勉強中、洋服のフードをかぶって遊ぶ小学生に優しく話しかけた＝2月9日、いずれも大阪市中央区

中1で生徒会役員に立候補する際、教室で演説文を読み上げたメグ（中央）。拍手する鵜飼聖子（右）＝2015年10月

コロナ禍での高校の休校中、教室スタッフにオンラインで勉強をみてもらうメグ＝2020年5月

記事を書いたのは1年半後で、教室にはその後も通い続けた。子どもたちからは「タロー」と呼ばれ、毎週会うのを楽しみにしてくれる子もいる。離れがたかった。

7年前から見てきた子の一人がメグ(18)だ。タイ人の母と日本人の父の間に生まれ、二つの国籍をもつ。教室では同じように日本国籍をもつ子も多く、「外国ルーツ」という言葉を使っている。

メグはタイの田舎で育ち、小学1年で来日。マンション管理人の父親と2人、島之内で暮らした。

地元の市立南小学校に入ったが、4年生までは日本語に難しさを感じていた。5年生だった2013年、校長と支援者らが外国ルーツの子の学習を支えるため、教室を立ち上げた。同級生に誘われ、メグも通い始めた。

メグは教室を休まず、地道に宿題をがんばる子だった。自宅は教室から30以の距離だが、中学生になるまで父親が迎えにきた。

生活に大きな変化があったのは高2の5月。父親が自宅で突然、起き上がれなくなった。

メグがとっさに電話した先は、教室設立時からのスタッフ、金光敏(49)と元スタッフの鵜飼聖子(63)だった。「すぐ救急車を」と促され、駆けつけた2人と病院で手術を待った。父親は脳出血の後遺症で長期入院が決まった。

手術後の2日間、メグは自宅で、一人きりで過ごした。

「心がやばい」。不安で押し潰されそうだった。鵜飼に電話をかけた。「泊まりにおいで」。鵜飼はそう言い、1カ月余りメグを自宅から高校に通わせた。家事も教えた。「他に頼れる人がいないことは教室での関わりの中で感じていましたから」と鵜飼は言う。

役所や病院での手続きには、金が同行した。受験は元高校教師の教室スタッフが支えた。島之内に住む私の家にも、メグは週1回、夕食に来た。妻と3人で食卓を囲み、学校でのできごと、試験の結果、恋の悩みなど、高校生らしいおしゃべりに興じた。

「いろんな大人が周りで支えてくれた」。この2年間をふり返ってメグは言う。「勉強のこと、生活のこと、心のこと。一人で不安を抱えますんだ」

今月1日、メグは住みなれた島之内を離れ、進学する看護専門学校の寮に入った。「教室は私の心の居場所。これからも相談にのってほしいし、成長をみてほしい」

引っ越しにはもちろん、教室のスタッフらが応援に駆けつけた。

＝敬称略（玉置太郎）

企画・制作　朝日新聞社メディアビジネス局

日本医師会 公式YouTubeチャンネル

コンテンツ充実中!! ぜひ、見てね

注目コンテンツ

みなさんの疑問に答えます！
新型コロナウイルスワクチン

フリーアナウンサー 宇賀なつみさん

日本医師会常任理事 釜萢（かまやち） 敏先生

ワクチン接種を希望される方が安心して接種が受けられるよう
さまざまな疑問に答えています。ぜひ、日本医師会公式YouTubeチャンネルでご覧ください。
日本医師会のホームページでは、「健康ぷらざ」や「健康の森」など、
国民の皆さんに役立つ情報を掲載しています。併せてご活用ください。

配信中

東日本大震災10年
あの時得た教訓を忘れない
～続ける「絆」の医療支援～
被災地医師会の取り組みや、日本医師会の支援活動を振り返り、あの時得た教訓を今後の災害医療に生かすには、どうするべきか語り合いまします。

公益社団法人 日本医師会
https://www.med.or.jp/

大学入試によく出る朝日新聞の記事を使った小論文対策教材

定期購読 申込受付中!

中3～高校生対象　添削指導付

時事から学ぶ 小論文

2021年度 第2号【情報編】オンラインが変えるコミュニケーション

毎号テーマを設け、テキスト前半部分では報道写真や図表を使って解説。後半は社説や天声人語を読み解く記述・論述問題で、自分の意見を論理的に書けるように学びます。

4月7日発売!

2021年度テーマはこちらをチェック!

思考力・判断力・表現力重視の 大学入学共通テスト対策にも

A4判/テキスト32ページ/解答・解説16ページ ■年間8冊発行 ■定価1,980円(税込)/1冊

毎号無料添削指導1回分ができます　電子書籍版もあります　2020年度バックナンバーも好評発売中!

未来の科学技術を考える 今解き教室 IMAITOKI KYOSHITSU

JSEC Junior サイエンス Science

2021年度 豊富なカラー写真と図解で 科学的な思考力を伸ばす

小学4年生～中学生向け

第1号 ロボット・人工知能との共存 4月20日発売!

第2号 宇宙のなぞに迫る 7月刊

第3号 人体と生命の科学 12月刊

定期購読 申込受付中!

電子書籍版もあります

B5判/48ページ/オールカラー ■年間3冊発行 ■定価869円(税込)/1冊

発行・編集 朝日新聞社　販売 朝日新聞出版

購入・購読のお申し込みは 今解き教室 e-shop

ASA(朝日新聞販売所)や全国の書店でもご購入いただけます

●「今解き教室e-shop」について ▶お支払い方法:クレジットカード払い ▶お届け:定期購読の場合、発売日から1週間以内のお届け。既刊本はご購入手続きから約10日間。▶送料:無料 ▶返品:不可 ※商品到着日から7日間以内にご指摘のあった商品不良は交換させていただきます。※お申し込み後の解約はできません。※個人情報保護ポリシーについてはウェブサイトをご確認ください。 株式会社 朝日新聞社 教育総合本部 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2　お問い合わせ 03-3796-3815(月～金10:00～18:00 ※土日祝休)

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.